

(技術士事務所 稲葉 IT ガバナンス研究所 脱炭素 DX モニタリング)

第17号：2025年7月21日（月）～ 2025年7月27日（日）報道分

週刊 脱炭素 DX ニュースウォッチ 2025（日経 XTech 編）の第 17 号を配信いたします。

<目次>

- ☐ 7/21 (月)
- ☐ 7/22 (火)
- ☐ 7/23 (水)
- ☐ 7/24 (木)
- ☐ 7/25 (金)
- ☐ 7/26 (土)
- ☐ 7/27 (日)

*2) 各記事のタイトルに続いて、編集者が生成 AI（ChatGPT）と対話をしながら作成した数行の要約文章を記載しています。

- ☐
- 7/21 (月)

該当記事なし

目次へ

- ☐ 7/22 (火)

【7/22・日経 XT】ニュース解説：土木「複合災害」対策の難しさ浮き彫りに 国土交通省、能登の地震・大雨踏まえ提言 星野 拓美 日経クロステック／日経コンストラクション

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00142/02331/>

国土交通省は、2024 年の能登半島での地震と大雨を受け、「複合災害」対策の検討会を設置し、2025 年 6 月に提言をまとめました。災害の連鎖による被害拡大を防ぐため、先発災害後の変状把握やリスク評価に SAR 衛星やドローンを活用する新技術の導入を提案。また、土砂・流木被害を見込んだハザードマップの導入や砂防施設整備などを進める必要性も強調されました。被災シナリオの複雑さから提言策定に時間を要し、複合災害対策の難しさが浮き彫りとなりました。

【7/22・日経 XT】自治体予算調査 2025 環境・エネルギー 脱炭素やグリーンインフラの事業化、横浜市は資源循環の可視化へ 奥野 慶四郎 ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/ncr/18/00243/071000004/>

2025 年度、各自治体は脱炭素やグリーンインフラ事業に積極的に予算を配分しています。横浜市は「みなとみらい地区」で資源循環率の可視化を推進し、廃棄物データを活用した循環性の向上を目指します。京都府は藻場の造成支援、熊本県は地下水涵養を担う草原等の保全に予算を計上。福島県は水素利用の社会実装、群馬県は温泉熱を活用したバイナリー発電の可能性調査、秋田県や和歌山県は洋上風力発電導入の基盤整備に取り組みます。

[目次へ](#)

□ 7/23 (水)

該当記事なし

[目次へ](#)

□ 7/24 (木)

【7/24・日経 XT】グリーン・リバイバル 潮流 3 横浜で GREEN×EXPO 2027 2027 年「花博」へ本格始動、仮設建築物の循環に先手打つ 立野井 一恵 ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/na/18/00284/071500004/>

2027 年に横浜市で開催される国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」は、脱炭素や生物多様性を主軸に据えた A1 クラスの大型イベントです。展示は 5 つのビレッジに分かれ、企業や自治体が最新のグリーン技術や園芸文化を紹介します。特徴的なのは、仮設建築物の循環利用に向けた「GX House」導入で、再利用部材を活用し廃棄ゼロを目指します。閉幕後も施設は防災公園や市民施設として活用され、グリーンレガシーを継承する構想です。

【7/24・日経 XT】自動車グローバルウォッチ GM と Redwood、使用済み EV 電池でデータセンター向け蓄電システム 櫛谷 さえ子 日経 Automotive 専属ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03214/071800022/>

米 GM は Redwood Materials と提携し、使用済み EV 電池を活用したデータセンター向け蓄電システムの構築を進めています。AI 導入に伴う電力需要の急増を受け、リユース電池による低コストかつ安定的な電力供給が課題解決の鍵とされています。Redwood は既に GM の中古電池を活用し、最大規模のマイクログリッドを運用中で、今後 100MWh 超の大規模蓄電にも展開する方針です。詳細は 2025 年後半に発表予定です。

【7/24・日経 XT】グリーン・リバイバル 潮流 4 海外の大胆計画 バルセロナの脱・車社会戦略、高架道路を撤去し大規模緑地に 吉村 有司 東京大学特任准教授

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/na/18/00284/071500005/>

バルセロナ市は車中心の都市構造を見直し、2025 年に高架道路を撤去し大規模緑地「グロリアス広場」へと再生しました。主要幹線道路を地下化し、地上を 1000 本以上の樹木と芝生で覆う 9ha の緑の公共空間へ転換。歩行者空間と公共交通を組み合わせ、人中心の都市デザインを実現しました。この再開発は、1859 年の都市計画家セルダの緑重視構想に回帰するもので、気候変動対策と都市政策を一体化するバルセロナの先進的な長期ビジョンの象徴となっています。

【7/24・日経 XT】ニュース 時事 国交省が LCA 制度化の本格検討を開始 建物のライフサイクルで環境負荷評価、26 年に中間まとめ 奥山 晃平 日経クロステック／日経アーキテクチャ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/na/18/00006/071500631/>

【7/24・日経 XT】建設 DX の終わらない話 第 8 回 国交白書も警鐘、建設業の「供給制約」木村 駿 日経クロステック／日経アーキテクチャ

【7/24・日経 XT】グリーン・リバイバル 潮流 5 緑の政策動向 優良緑地の認定制度が始動、投資促進で世界に追いつけ 木下 順平 日経クロステック／日経アーキテクチャ

国土交通省は、緑地整備への民間投資を促すため、新制度「TSUNAG（つなぐ）」を創設しました。計画の質と量を150点満点で評価し、トリプル・スターなど3段階で認定。2025年3月には麻布台ヒルズなど14件を初認定しました。認定計画には補助金や無利子貸付も活用可能で、国際的なESG評価制度との連動も進められています。制度の導入により、遅れが指摘される日本の緑地環境の質と量の向上が期待されています。

目次へ

[illegible]